龍谷
Ryukoku
2020 No.89

短期大学部 永谷 亜優 さん

龍谷 2020 No.89

Ryukoku Magazine 89 March 2020

CONTENTS

01 P01
Feature Article 巻頭特集 学長対談
歴史に学ぶ他者理解
磯田 道史 さん × **入澤 崇** 学長

02 P06
Ryukoku 5長 News
次期将来計画「龍谷大学基本構想 400」を策定しました

03 P08
Ryukoku Event
龍谷大学創立 380 周年記念事業
・瀬田学舎開学 30 周年記念対談会・シンポジウムを開催
・龍谷大学創立 380 周年記念事業「世界宗教フォーラム」を開催
・大宮学舎 140 周年記念シンポジウム「かたりのチカラ」の開催
・深草キャンパス「成就館」の竣工

04 P10
People, Unlimited
経験を自分らしさに変えて
社会の在り方を考える
海津 更 さん 法学部

P12
People, Unlimited
ジビエから始める循環型社会の実現
笠井 大輝 さん 政策学部
株式会社 RE-SOCIAL 代表取締役

P14
People, Unlimited
『三代目』の公演でサポートダンサーを経験
学業との両立に奮闘した 2 年間
永谷 亜優 さん 短期大学部

05 P16
Education, Unlimited
グローバルな視点と仏教精神が
AI 研究のステージを上げる
植村 渉 講師 理工学部

P20
Education, Unlimited
植物の『おしゃべり』を聞いて
農家の負担軽減を考える
塩尻 かおり 准教授 農学部

06 P24
Special Article 特別企画
源氏物語研究の夢膨らむ
幻の『若紫』発見
藤本 孝一 客員教授 文学部

07 P28
World, Unlimited
本当の利益とは他者を幸せにすること
ムハマド・ユヌス さん グラミン銀行創始者
ノーベル平和賞受賞

08 P32
Event Ryukoku Museum
人間味あふれるキャラクター
物語の中に生きる仏弟子たち
岩田 朋子 龍谷ミュージアム学芸員

09 P34
People, Unlimited 龍谷人
食べられるアートで
日常に楽しさを
能崎 真弥 さん
フロンティア株式会社

P36
People, Unlimited 龍谷人
東京オリンピック・パラリンピック
一生一度のチャンスに「完遂」掲げて
小林 淳二 さん
アシックスジャパン株式会社 代表取締役社長

P38
People, Unlimited 龍谷人
柔道療育に可能性の光
障がいを持つ子どもたちの笑顔と成長
内村 香菜 さん
放課後等デイサービス事業所「笑光」代表

10 P40
News & Topics
最新情報

11 P46
Book Café
新刊紹介

01 | Feature Article

巻頭特集 学長対談

歴史に学ぶ他者理解

歴史家
磯田 道史
×
龍谷大学学長
入澤 崇

磯田 道史　いそだ みちふみ 1970年岡山市生まれ。歴史学者。慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程修了。国際日本文化研究センター准教授（2020年3月現在）。子どもの頃から歴史好きで石仏の拓本を取って回り、その後、古文書の解読をおこなう。『武士の家計簿』（新潮ドキュメント賞受賞）、『天災から日本史を読みなおす』（日本エッセイスト・クラブ賞受賞）、『日本史の内幕』など著書多数。『武士の家計簿』、『殿、利息でござる！』が映画化。『英雄達の選択（NHK BSプレミアム）』はじめテレビ出演多数。

人工知能の登場やグローバリズムにより国内外ともに経済的にも転換期にある今。マニアックで鋭い歴史認識で人気を博し、メディアで活躍する歴史家の磯田道史さんと入澤学長が、これからを生き抜くための人文学の有用性について熱く語り合った。

磯田　よく「私も歴史好きなんです」と話しかけられるんですが、歴史は好き嫌いじゃないと思っているんです。歴史は、学ばないと、世の中を安全に歩けない。人生を歩くための靴に近い実用品みたいなものだと思っていて。

歴史家としても、今、人類史上未知の段階に入りつつあると確信しています。僕たち研究者も大学教育自体も、教育を受ける若者も、政府も親も、意識を変えざるを得ない時代です。「大学から駅まで車で何人送迎」という作業は、AIが搭載された車がやるようになる。でも「この人を1日楽しく過ごさせる」といった非常に抽象度の高い、人の感情に根ざした仕事が、たぶんこれから経済の中心になっていく。おそらく感情や脳や哲学といった人文知の分析が前よりも重要視されます。理工系はそれとリンクした形で発達していくのに、人文学の有用性はここ数年までそれほど認識されていなくて。これからの10年ほどで、哲学や歴史や人文学の広い教養、それこそが実は経済成長のエンジンになるし、人間の心の幸せにとって重要だと気づくようになるでしょうね。

入澤　本学はあと20年で創立400周年、そこを見据えて、今ちょうど長期計画を立てながら今後の教育を考えています。おっしゃるように、これから必要になってくるのは人文学の素養。私は総合大学がこれから真に重要な役割を果たすと思っています。本学の理工学部は2020年4月に「先端理工学部」として新たに歩みはじめますが、私は、人間の「情」の部分にも踏み込んだ研究を期待しています。

磯田　今は暗記系はAIがやってしまう。僕はよくGoogle検索と知識競争をします。例えば歴史的な建物について、何年に誰が建てたのかは検索で出る。記憶量じゃGoogle検索に負ける。しかし、「なぜ建てたか?」といった質問への回答は検索エンジンは不得意で、僕が勝つ。発想し総合的に論理を組みあげる力には人間に軍配が上がる。暗記でなく「なぜあの人はあのお寺を作ったのか?」といった質問に総合判断で答えられる知の育成が、これからは価値をもちます。

先ほど龍谷ミュージアムを観てあらためて大事だと思ったのは、自分の目で見て鼻で嗅いで手で触る体験。報道などで日本人が陥りがちな「銀行強盗が金庫をバールのようなものでこじ開けて」とか「城を枕に討ち死にする」などの表現に代表されるよくある型にハマってはいけない。バールのようなものと書いた新聞記者は、バールを実際に見てこじ開けて確かめたことがあるのか、そのリアリズムですよ。疑問を持って自分で確かめ、世界を深めることを大切にして欲しいです。僕も子どもの頃に竪穴式住居を作って、その中でウインナーを囓ってみたり、神社で使われる「ぬさ」を分解して自分で作ってみたりしていましたね。

入澤　今はネットで検索してわかったつもりで課題を出してくる学生が多いですが、実際に自分で発見したら喜ぶんですよね。じっくり自分で課題と向き合い、自分の言葉にした。それができた人は、世界を見る目が変わってきます。応用も利く。

入澤 崇　いりさわ たかし　龍谷大学学長。1955年広島県因島生まれ。龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。専門は仏教文化学。1990年文学部仏教学科に着任。ベゼクリク石窟壁画の復元事業や数多くの仏教遺跡調査に従事。2004年から5年間アフガニスタン仏教遺跡学術調査隊の隊長を務める。龍谷ミュージアム館長、文学部長を経て、2017年4月に学長就任。

磯田　数学者の岡潔の著作に、人間の中心にあるのは情緒であり、実はあらゆる科学の元になっているのは「発見の鋭い喜び」だ、とありました。だから僕は自分の子どもの子育てには「発見の鋭い喜びをいかに小さい時から味わえるか」を大切にしました。いないいないばぁや宝探しのような遊びを、親が一緒に面白がってやると「自分で発見する」ことによって大人になっても楽しく暮らせる人間になれる。

正直なところ僕自身は、アルバイトしながら考古学の遺跡を訪ねて歩くような人生をイメージしていたので、今のように大学院教員になったり、TV番組作りに絡んだり出演に引っ張られるとか、本を書きたいなど思ったこともなかったんです。振り返るとやっぱりネットにはない独自の視点や切り口で読み解いてみるなど、面白がってやるということが大事ですね。

入澤　私も学生時代「誰もやっていないことをやりたい」と面白がって受講生の一番少なかったパーリ語を選択し、それがきっかけで古代インド仏教の世界にのめり込んでいきましたね。20代で実際にインドに行き、現地の多様な文化を体感してみてやっと、常識とされていることに疑いを持つことができ、研究に打ち込むようになりました。

磯田　10年以内に、1年間に日本に来る外国人の数は日本の総人口を超えるでしょうね。昔は外国語を学べばいいという単純な考えでしたが、もう翻訳は機械がおこなうようになる。世界中から必要とされる価値とは何なのかという目線が大切です。

京都の街に住んでいるとわかるんですよ。本能寺の変で信長を襲った時の弓を現在も京都の町家で作り続けている。そんな弓師の仕事を、世界からわざわざ見に来る人が現れるはずだと感じます。合理的でない、個人の手仕事になぜ人間は興味を持つのか、そういうことを考えていかないと、なかなか50年後の経済は読めない気がしています。そこで、他者理解となる歴史です。たとえば明治時代の日本は弱者であったので、自己中心的な天動説の思想と行動ではやっていけなかった。地動説に切り替え、自分と違う相手がどのような考え方をし、世の中にはどんな力学が働いているのかを知っていきました。善悪の判断は別として、こんな結果になっていく。じゃあどうしたらいいのか、と世界認識していった。

入澤　龍谷大学と関係の深い大谷探検隊も世界を深く認識したいとの意向を抱いていました。明治の時代に、「ともかく現地へ」という視点は、今もう一度見直すべきじゃないかなと思います。大谷探検隊が収集したインドのアショーカ王碑文には「衆生（いのちある者）」という言葉がでてきます。「衆生の安楽のため」「衆生の利益のため」といった利他的な発想がみられます。戦争の愚かさに気づいた王が本当に大切なものは何かを考えるようになったんですね。

磯田　散々な殺戮をやった後に、感情のあるものすべてを大事にしていくという思想が確立されていきますね。無駄なものはない。すべて大事の思想です。

入澤　はじめに「歴史は靴」であるというお話でしたが、靴の幅の分さえあれば、歩いては行けますが、平均台の上のようで、安心感は得られない。無駄なところがあるから安心して歩いて行ける。一見無駄に思えるようなことを学んで「発見の喜び」を楽しむ。大学はそのチャンスに溢れている。それに目を向けさせるのが教育の力だろうと思っています。

02 | Ryukoku 5長 News

次期将来計画「龍谷大学基本構想 400」を策定しました

本学は、創立400周年を迎える2039年度末を見据え、現在推進する第5次長期計画の次を担う将来計画として「龍谷大学基本構想400」（以下「構想400」）を策定しました。

構想400は、2020年度から2039年度までの20年間を計画期間とする超長期計画です。これは、これから先の未来が予測困難で不確実性がますます高まる状況にあるからこそ、遠い将来のあるべき姿をはじめに定め、そこに1期4年間の中期計画を5期にわたって展開しようとするものです。このことで、諸改革の積み重ねを堅実に進めるとともに、環境変化に対しても機動的に対処できるように企図しました。

また、これまでの過去5次にわたって積み上げてきた長期計画の延長線上で策定するのではなく、先例にとらわれず斬新な発想に基づいた計画としました。このため、従来からの「第◯次長期計画」といった名称を踏襲せず、本学がめざす姿を表現し、それを社会へ浸透させることを目的に、次のとおり称しています。

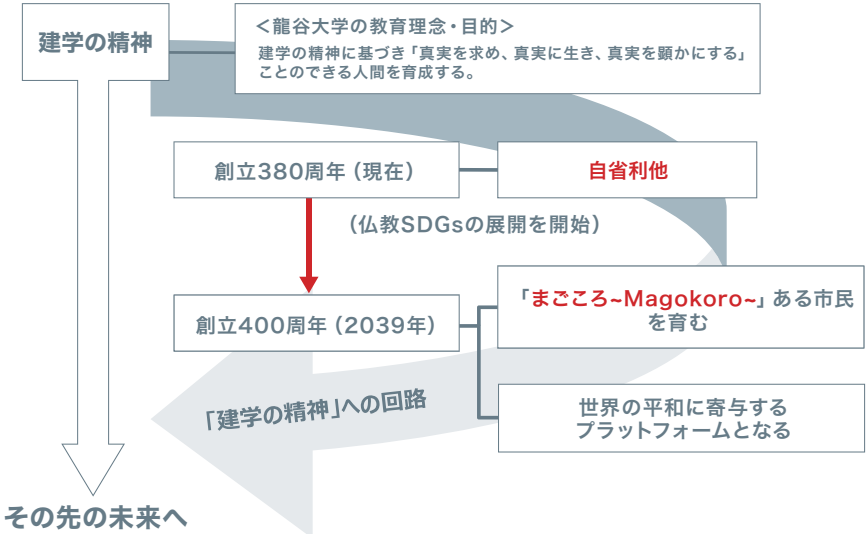
龍谷大学 基本構想400（略称：構想400）
―2039年 創立400周年を超えた未来に向けて―

Ryukoku Strategic Plan 400
（略称：RSP400）
-Ryukoku Unlimited Challenge for 2039 -

ここでは、新たに本計画期間における「使命」、到達する姿としての「2039年の将来ビジョン」、そして「育むべき力とマインド」を示すこととしました。あわせて、このビジョンを達成するために、「長期目標」、事業推進にあたっての「プロジェクト・マネジメントの要点」、そして特に重点的に取り組むべきことを「重点戦略」として定め、グランドデザインを構成しています。

2039年の将来ビジョン
―「龍谷大学だからこそ」の到達点―
「まごころ～Magokoro～」ある市民を育み、新たな知と価値の創造を図ることで、あらゆる「壁」や「違い」を乗り越え、世界の平和に寄与するプラットフォームとなる。

構想400がめざすもの



今後、構想400の特設サイトを通じて、継続的な情報公開を行ってまいります。引き続き、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

構想400特設サイト
https://www.ryukoku.ac.jp/400plan/

【まごころ～Magokoro～とは？】
人間は自己中心的であり、真実を見誤る存在です。固定的な自己というものはなく、数限りない「縁」から自己を形成しています。こうした周囲との「関係性」に目を向け、「自己中心性」から脱却して、新たなる関係を築くことで社会のために貢献する。このような逞しい「思い」をもって、自らのありようを省みるとともに、他者との関係性を重んじ、他者の幸福に資することを考え行動する志を「まごころ～Magokoro～」と定義します。

03 | Ryukoku Event

龍谷大学創立380周年記念事業

瀬田学舎開学 30 周年記念対談会・シンポジウムを開催

2019年10月26日(土)、瀬田学舎開学30周年を記念し、「仏教SDGs～近江商人の『三方よし』に学ぶ～」をテーマに対談会およびシンポジウムを開催しました。地域住民、企業、自治体関係者の方々をはじめ本学学生、教職員など総勢500名の参加者がありました。

第1部は、越直美大津市長の祝辞で始まり、滋賀県知事で本学農学部客員教授でもある三日月大造知事と入澤崇学長が、「滋賀県が先進的にSDGsに取り組む意義」や「本学の取り組みや仏教SDGs」などを話題に対談し、滋賀県や龍谷大学の課題についても意見交換がおこなわれました。双方の課題解決につながる取り組みを推進し、積極的に連携を強化していく考えが示されました。

第2部のシンポジウムでは、鷲見徳彦氏(大津市副市長)、山元磯和氏(滋賀銀行総合企画部長)、相場咲希さん(社会学部現代福祉学科3年生)、入澤学長が、行政・企業・学生・大学それぞれの視点から議論しました。同時に、SDGsポスターコンテストや農学部ベジタブル料理コンテストなどもおこなわれ、いずれも盛況のうちに終了しました。

龍谷大学創立380周年記念事業

龍谷大学創立 380 周年記念事業「世界宗教フォーラム」を開催

2019年11月16日(土)、龍谷大学創立380周年記念事業「世界宗教フォーラム」を開催しました。

第1部では、2006年にノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌス氏による、基調講演がおこなわれました。(本誌P28～31参照)。

第2部では宗教者・科学者・産業界の方々による「自省利他」に関する講演およびパネルディスカッションがおこなわれ、森本公誠氏(東大寺長老)、ハンス ユーゲン・マルクス氏(藤女子大学学長・カトリック司祭)、吉川弘之氏(東京大学第25代総長・日本学士院会員)、熊野英介氏(アミタホールディングス株式会社代表取締役)が、仏教、キリスト教、工学、企業、それぞれの立場から「自省利他」について意見をかわしました。フォーラムには320名の参加があり、熱心に聴き入っていました。

龍谷大学創立380周年記念事業

大宮学舎 140 周年記念シンポジウム「かたりのチカラ」の開催

2019年12月22日(日)、大宮学舎140周年記念シンポジウム「かたりのチカラ―社会を結びほぐす人文学の可能性―」を開催しました。会場が400名の聴衆で満席となる中、作家の澤田瞳子さんをメインゲストにトークセッションとパネルディスカッションが繰り広げられました。

第1部は、「歴史の語りかた、物語の読みかた」で、安藤徹文学部長を聞き手にトークセッションがおこなわれ、創作活動のこと、ことばで表現することの魅力、歴史・物語と現代との関係などについて、澤田さんより興味深いお話をうかがうことができました。

第2部は、「社会を結びほぐす人文学」をテーマに澤田さん、兼松佳宏さん(勉強家・京都精華大学人文学部特任講師)、入澤崇学長によるパネルディスカッションがおこなわれ、知的刺激に満ちたやりとりが繰り広げられました。そして、文学部での学びの意義や人文学の大切さなどについて、力強いメッセージをいただきました。

多くの来場者からは、とても面白いシンポジウムで時間が足りないくらいであったとの感想が届けられるなど、「かたりのチカラで社会を結びほぐす人文学の可能性」を実感できる意義深いシンポジウムとなりました。

深草キャンパス「成就館」の竣工

第5次長期計画の施設整備事業として、旧耐震基準の建物であった学友会館(築後47年)を建て替え、2020年1月15日(水)、新たに「成就館」として竣工しました。

学友会館の課外活動拠点としての機能に加え、地域連携、ボランティア活動など、本学の様々な取り組みを学内外に広く発信する拠点として活用できるユニバーサルな施設として整備しました。

シンポジウムや音楽イベントなど幅広い用途で利用することができる多目的ホール「Ryukoku Main Theater」(350名収容)、「Ryukoku Live Theater」(150名収容)やレストラン「Café Ryukoku &」では、新たな出会いを創出する場として活用されることを期待しています。

04 | People, Unlimited

経験を自分らしさに変えて社会の在り方を考える

海津 更 さん
法学部法律学科 2 年生
都立新宿山吹高等学校 出身

犯罪学研究センター 京都コングレス・ユースフォーラムへの道のり https://crimrc.ryukoku.ac.jp/youth_forum/

2020年4月、国立京都国際会館で「京都コングレス（第14回国際犯罪防止刑事司法会議）」が開催されるのに伴い、世界各国の学生たちがコングレス関連のテーマで話し合う「ユースフォーラム」がおこなわれる。国内外約120名の学生が参加し、「青少年犯罪の予防と社会復帰における若者の役割」、「法遵守の文化を醸成するための若者の教育」、「安全なネット社会に向けた若者の責任」の3つの分科会にわかれディスカッションが進む。

「日本は法律をなかなか変えないが、検討の過程で海外の視点も刺激になる。世界の学生と議論できるのが楽しみ」と語るのは本学から参加する海津更さん。犯罪学に興味があり、分科会は「法遵守の文化醸成」に参加する。龍谷大学からの参加は6名で、2週に1回の学内の定期勉強会を通して、英語での議論のスキルアップをめざしている。

彼女は施設参観にも積極的で、刑務所や少年鑑別所など9施設へ足を運んだ。少年院では農園作業を通して先入観のない子どもたちとの交流に癒された少年の話を法務教官から聞き「法遵守の文化醸成」のヒントだと感じた。現在の日本の少年犯罪は自分を大切にできない結果が多い。ふれあいによって自尊感情を高められたら再犯防止につな

「ユースフォーラム」に向け犯罪学の特別講義で学ぶ海津さん

がると言われ、改善更生の現場で実際に聞くと納得できた。

海津さんは中学校1年生から数年間児童養護施設で過ごした経験がある。父の死後、母親と不仲になったのが原因。一度実家に帰ったが、高校2年の途中で再び施設へ。自らの経験から心理学と犯罪学に興味を持ち、転校した定時制高校で卒業単位を取得して、犯罪学の権威の教員が揃う本学に入学した。今は家庭の問題も乗り越えた。「体験の全てが自分を作り上げてくれるのだから、きっとまた輝くことができる」というカウンセラーの言葉には救われた。再犯防止には徹底的な寄り添いが必要だと感じている。

「将来は改善更生プログラムの検討や実施に関わりたい。また少年院や刑務所などの施設と社会との間の壁や偏見をなくし、社会復帰の難しい状況を変えたい」

将来への思いや期待を胸に、今は「ユースフォーラム」への準備に余念のない毎日だ。

海津 更 さん

04 | People, Unlimited

ジビエから始める循環型社会の実現

笠井 大輝 さん
政策学部政策学科４年生
大阪府立花園高等学校 出身
株式会社RE-SOCIAL代表取締役

2019年11月29日（いいニクの日）、西日本一人口が少ない京都府相楽郡笠置町で『株式会社RE-SOCIAL』を起業した笠井大輝さん。現役学生3名によるジビエを主力事業とする小さな企業だ。社名には「理想の循環型社会を生み出していく」という思いが込められている。

授業で鹿や猪による農作物への「獣害」という言葉が耳に残った。国からの報奨金で捕獲頭数は伸びているがその9割が破棄されていることや、データにはあがってこない自家菜園への被害も多いことを知った。調査のために3年生の冬、郊外へ向かった。そこで目に入ってきたのは捕獲された動物の死がいの山。「無残に捨てられている命を、自分はそのままにしておくことはできない…」。野生動物を料理に活用できるジビエで起業を決めた瞬間だった。

そこからジビエを詳しく調べてみると、食肉製造でイスラム教信者が食せる『ハラル認証』の取得者が徳島にいた。「これは会うしかない」と行ってみると、猟・運搬・加工まで一人でこなす84歳の男性だった。銃ではなく、オリ猟で生きたまま屠殺すれば、臭みを抑えられ、一頭あたり精肉のみなら3割のところ、骨や皮まで商品化すれば8割が活かせるこ

とを教わった。命を余すことなく頂くという考え方にも共感し、4年生の5月、3人で1ヶ月住み込みで修行をし、オリ猟と解体技術を教えてもらった。「最初にさばくときは心が折れそうだったが、このままじゃ死がいの山ができるばかり。そう思うとやるしかない」

政策学部で「大きな変化を社会に与えるためには、まず小さい変化から」と学び、人口約1200人の笠置町を選んだ。7月からオフィスを借り、行事に参加するなど地域と少しずつ関係を築いていった。一軒家で3人暮らしを始め、12月には解体処理加工場を建てる土地が決まった。今では猟友会に入って猟もする。

今後は、賛同してくれる方々にオリ猟で仕掛けるオリを1箱単位で契約するファンドや、捕獲頭数安定のための一時飼育、そのエサに笠置町特産のお茶の茶殻を使い臭みを消すなど、循環型社会の実現に向け、笠井さんの頭のなかで未来はすでに描かれている。

RE-SOCIALの皆さん
左から江口 和 さん、笠井 大輝 さん、山本 海都 さん

04 | People, Unlimited

『三代目』の公演で サポートダンサーを経験 学業との両立に奮闘した2年間

永谷 亜優 さん
短期大学部こども教育学科 2 年生
京都府立桂高等学校 出身

厚底ヒールにくっきりアイメイク。ふんわりとウェーブのかかった栗色の髪をなびかせ颯爽と歩く姿は、キャンパスでは見慣れない華やかな印象。垢抜けた容姿のなかに芯の強さを感じさせるのは、鍛え抜かれた体幹のせいだろうか、短期大学部こども教育学科に通いながら、ダンサーとして活躍する永谷亜優さん。

小学校から習い始めたダンス歴は約10年。高校時代より、EXILEや三代目J SOUL BROTHERS（以下、三代目）等が在籍する株式会社LDH JAPANが運営するダンススクールEXPG STUDIOに通い続け、昨年8月には三代目の大阪公演にてサポートダンサーとして選抜され、初めてステージに上がった。しかしまだ関西での公演のみのサポート。全国公演についていけるのは、さらなる選抜メンバーとなるので、今はまだ喜んでいられない。ダンス歴が長くても舞台に上がれる保証がない競争率の厳しい世界なのだ。

「公演が近づくと週に4日はレッスン。朝6時に起きて電車・バスを乗り継ぎ、2時間かけてリハーサルに。帰宅は23時近くになります。勉強は移動中の車内や、出番ではない曲の合間にやっています。後回しにすると気になってダンスに集中できないので。授業について

いけなくなりそうな時は、友達が助けてくれました。また、公演と教育実習が重なってしまった時に、先生、実習先や実習指導室の方々に対応していただいたことを感謝しています。実習先の保育園で踊って見せたら、0歳児の園児が手を叩いて喜んでくれて驚きました。体を使って全力で楽しむということはダンサーの世界と共通していますね。学業では、将来大学での経験を活かすためにも、在学中に保育士の資格と幼稚園教諭の免許は取ります」

卒業後は、念願だったダンス一本の生活がスタートする。まず目標にしているのはUSJ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）のパレードダンサーのオーディションに合格すること。「行けるところまで行きたい。今後も、ダンスでさらなる高みをめざしたい」と、厳しい世界での競争の経験からか、柔和な表情のなかに強い眼差しが光る。

永谷 亜優 さん

05 | Education, Unlimited

グローバルな視点と仏教精神がAI研究のステージを上げる

理工学部電子情報学科
植村　渉　講師

世界最先端技術に触れるチャンスが溢れる

2020年10月にWorld Robot Summit2020（ワールドロボットサミット・WRS）が日本で開催される。2019年12月にはそのトライアルとなるWRS2019トライアル競技大会が4日間にわたって東京ビッグサイトで開催され、理工学部電子情報学科の植村研究室から4人の学生が運営スタッフとして参加し、ものづくり部門である製品組立チャレンジの副審を務めた。期間中、学生たちはあちこちで最先端のロボット技術と出会うチャンスに恵まれた。

WRSは日本産業界を次のステージに進める交流の場とするため、1995年から続いている世界ロボット大会である「ロボカップ」経験の長い研究者たちが運営に携わっており、植村渉講師もその一人に名を連ねる。

「ロボカップ」のメインはもともとロボットのサッカーだが、2011年にはIndustry4.0（工場のオートメーション化）をめざすロジスティクスリーグも加わり、植村研究室は開始当初から参加してきたベテランチーム。研究室の3・4年生有志は、毎年世界の様々な国を舞台に開催される大会に立ち向かう。その過程では、ロボット動作のプログラムやAIの認識のプログラムだけでなく、ハードウエアにも触るため、回路やセンサーなどまで理解する必要もある。まさに電子情報学科の名のごとく電子と情報の知識を総動員して挑むこととなる。

「技術者なので、一から十まで下準備して教えるというより、見て盗んでねというやり方です。自らが興味を持って考え動かないとやっていけない世界ですから、研究室では『どうしたらいいですか?』はNGワード。世界のロボカップに参加したり、交流のあるドイツに留学した学生は、度胸がついているので海外へ行くのに抵抗がない。現在、企業はそういう人材を求めていると感じています」

研究室で加藤大登さんを指導する植村渉講師

World Robot Summit 2019 で審判を努める植村 渉講師

競技大会でのハードとソフトを、授業や産学連携プロジェクトに活用

ロボカップ・ロジスティクスリーグの競技に使われているロボットは教育用ロボット『ロボティーノ』。植村講師の授業や研究でも使用されている。「研究室にロボットがあって、触れたり、自分のプログラムで動かせるのが面白い。将来はロボットに関わる仕事につきたい」(理工学部3年生 加藤大登さん)

また、ロボカップには互いに育ち合おうとする土壌があり、技術はオープンソースとなっている。2019年には本学に相談があった警備会社NYSの夜間警備ロボット開発に関しても、障害物を見つけて走り回るこの競技大会で積み重ねてきたハードとソフトが役立った。公開されているロボカップ・ロジスティクスリーグのドイツ優勝チームのプログラムをベースにして、中小企業でも導入しやすい低コストで自律移動型ロボットが完成。夜間警備の人手不足を補っている。

人工知能研究は真理の追究へ

ロボカップのサッカーリーグのほうでは、2050年までに人間と試合ができるロボットが競り合って「いいゲーム」をするロボット作りをめざしているという。「そのためには強くて賢

いだけではなく、恐れや痛みを嫌だという概念を持つ人間味のあるロボットにしていく必要がある。例えば宗教では欲望や煩悩を取り去ろうとなるけれど、人工知能やロボット開発では逆で、どうやって煩悩を入れようかという方向。『浄土真宗の精神』が『建学の精神』である本学と理系の研究は意外と相性がいいんです。人工知能の行き着く先は人間がどう考えているかということ。それを言語化して手順化していくのが私の研究です」

世界に飛び出すチャンスに溢れ、宗教的知見豊かなこの環境で学んだ学生たちは、未来の人間のパートナーとしてどんな開発をしていってくれるのか、楽しみである。

植村 渉・うえむら わたる

1977年生まれ。大阪市立大学大学院後期博士課程修了。博士(工学)。2005年龍谷大学着任。現在講師。ロボカップ日本委員会理事。強い人工知能の実現をめざして、強化学習の研究に従事。ソフトウエアの研究が主体だったのが、いつの間にやらハードウエアも対象となり、今は、ロボットの大会運営を通して、人工知能とロボット技術の開発・向上に努めている。ロボカップ・ロジスティクスリーグ組織委員会、若年者ものづくり競技大会大会役員、技能五輪全国大会競技委員、ワールドロボットサミットものづくり競技委員会委員、あいちロボカップAP2020開催委員会競技専門部会 部会員など。

05 | Education, Unlimited

植物の『おしゃべり』を聞いて農家の負担軽減を考える

農学部植物生命科学科
塩尻　かおり　准教授

敵から身を守るためのコミュニケーション

植物は動物のように動いたり鳴いたりはしない。しかし、植物たちは彼らだけにわかる方法でコミュニケーションを取り合い、おしゃべりをしているということが近年科学的に明らかになっているそうだ。そんな驚きの研究をしているのが農学部の塩尻かおり准教授だ。植物たちはどんな『ことば』を持ち、なにを話しているのだろうか。

「植物は動けない、声が出せない代わりに、香りを言葉として巧みに操り、コミュニケーションをしています。例えば、キャベツがアオムシに食べられると、アオムシの天敵の虫をおびきよせる香りを出して、それ以上食べられないように防衛します。そればかりか、その香りを隣のキャベツがキャッチすると、自身にも危険が迫っていることを知り、食べられる前にアオムシから身を守ろうとします。つまり植物は匂いを出すことで、仲間に敵が来たことを知らせて危険から自身を守っているのです。しかも親や兄弟など血縁関係が濃いほど強く防衛反応を起こします。このような植物間のやりとりをプラント・コミュニケーションといいます」

このように匂いを介したコミュニケーションは既に40種類以上の植物で知られているという。また植物は香りだけでなく、根からも抽出物質を出し、土壌を介しておしゃべりをしている可能性があるそうだ。そんなことを知ると、植物にも意思があるのではないかと思えてくるから不思議だ。現在、世界中の研究者がこれらのメカニズムを解明しようとしているものの、植物たちがどこでどのように香りを受けているのか明らかになっていないという。

塩尻准教授は、まだまだ謎に包まれている植物の実態を、生態学の立場から研究し、そこで得た結果を農業で活用できないかと、学生たちと一緒に様々な実験を重ねている。

学生と実験で使ったセイタカアワダチソウの根の長さを調べる塩尻かおり准教授

研究結果を活かし農家の負担を軽くする

「植物は種類ごとに独自の言葉を持ちますが、種を超えた共通言語もあることがわかりました。大豆に苗の段階でセイタカアワダチソウの香りを嗅がせると、虫に食べられにくくなり、収量があがるばかりか、タネが含有するイソフラボンが多くなるなど成分の変化も見られました。イソフラボンやサポニンは苦味成分なので虫を寄せ付けません。でも同じ方法をイネで試すと、虫害が増え収量も減ってしまいました。大豆には通じるけど、イネには通じない。そんな相性の組み合わせをいろいろと考えるのも面白いですよ」

この実験結果を受けて、イネを対象に研究し、卒論にまとめたのが塩尻ゼミ4年生の廣本結香さん。廣本さんは無農薬畑を借りて、イネの苗に3週間ある雑草の香りをかがせてから植え付けた。すると、虫害にあったコメは少なくなり、収量も15%ほどアップしたという。「子どもの頃から植物が好きで、塩尻先生の研究に興味を持ちました。実験では頻繁に畑へ通っては、虫の量を調べたのが大変でしたね。朝夕10回ずつ虫取り網を振って、かかった虫の数を調べるのですが、多い日には3600匹も。夜遅くまでピンセットで数えたのも今となってはいい思い出です。大変でしたが、実際の農業で活用できそうな

結果を得ることができました」(廣本さん)

廣本さんは、今春卒業するが、実験はゼミの3年生が引き継ぐ予定だ。

「植物の香りを活用することによって、農薬をできるだけ使わない農業や収量を増やす技術を開発したいですね。また虫に食われたことで野菜の栄養成分が高まるなど良い変化が起こり、虫食いであることが人間のメリットになるようなことを証明できたらいいなと考えています。日本の農作物の規格は厳しすぎますから。多様な作物が受け入れられるよう、価値観を変えていく。そんな手助けになれば嬉しいです」と塩尻准教授は、研究を通じて農家の負担軽減をめざす。

塩尻 かおり・しおじり かおり

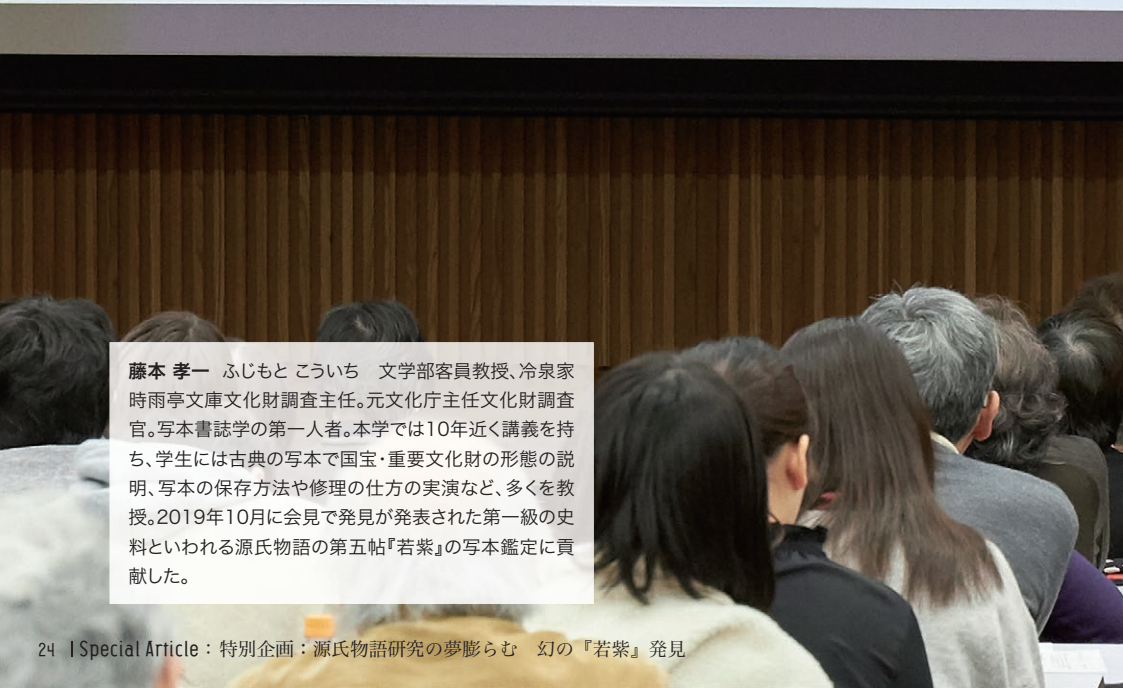
子どもの頃から生き物好きで動物の生態を取り上げるテレビ番組を見ては、生き物に関わる仕事をしたいと志すように。北海道大学で生態学を学び、京都大学農学研究科へ。昆虫と植物の相互作用の研究で修士課程および博士課程(農学)を修了。京都大学白眉センター助教を経て、2015年4月より龍谷大学着任。日本農学進歩賞、日本応用動物昆虫学会奨励賞、日本生態学会宮地賞、守田科学奨励賞、京都大学たちばな賞を受賞。国際チームや企業と共同で様々な研究をおこないながら、学生の指導、4人の子育てに奮闘中。

06 | Special Article

特別企画

源氏物語研究の夢膨らむ 幻の『若紫』発見

文学部
藤本 孝一 客員教授



藤本 孝一 ふじもと こういち　文学部客員教授、冷泉家時雨亭文庫文化財調査主任。元文化庁主任文化財調査官。写本書誌学の第一人者。本学では10年近く講義を持ち、学生には古典の写本で国宝・重要文化財の形態の説明、写本の保存方法や修理の仕方の実演など、多くを教授。2019年10月に会見で発見が発表された第一級の史料といわれる源氏物語の第五帖『若紫』の写本鑑定に貢献した。

新たな定家本『若紫』の登場

2019年、源氏物語研究の第一級の史料が国内に鮮やかに躍り出たニュースが世間を騒がせた。

世界的な古典文学「源氏物語」(全五十四帖)には実は紫式部作の原本は存在しない。後世の鎌倉時代の写本であり、歌人・文学者であった藤原定家主導で校訂されまとめられたもの、通称『青表紙本』が現存最古とされ、戦前までに四帖確認されて国の重要文化財とされていた。ところがその五帖目となる『若紫』が新たに発見され、2019年4月、京都の冷泉家時雨亭文庫に鑑定依頼のために持ち込まれたのである。

鑑定したのは、冷泉家時雨亭文庫の調査主任を務める、本学文学部の藤本孝一客員教授(元文化庁主任文化財調査官)。10月に同文庫で記者会見が開かれ国内でニュースとなり、11月の大宮学舎140周年記念特別企画講演では、藤本客員教授が鑑定の経緯や青表紙本の魅力を語った。

「長らく京都文化博物館で閲覧係として、現在一般に紹介されている源氏物語の代表格『大島本』(青表紙本の流れを汲み更にのちの室町時代に作られた写本。五十四帖のうち五十三帖現存。重要文化財)を見つめてきました。源氏物語の中身にはあんまり興味がないんですが、本と向き合うのは面白くて、紙質を透過してみたり、修正の跡を確認したりとマニアックなことをしてきた。藤原定家ゆかりの冷泉家時雨亭文庫のお手伝いもずっとやってきて。今回は持ち込まれたとき「アッ」と。すぐに「本物だ」と。装丁や紙質がこれまでの青表紙本と全く同じだった」

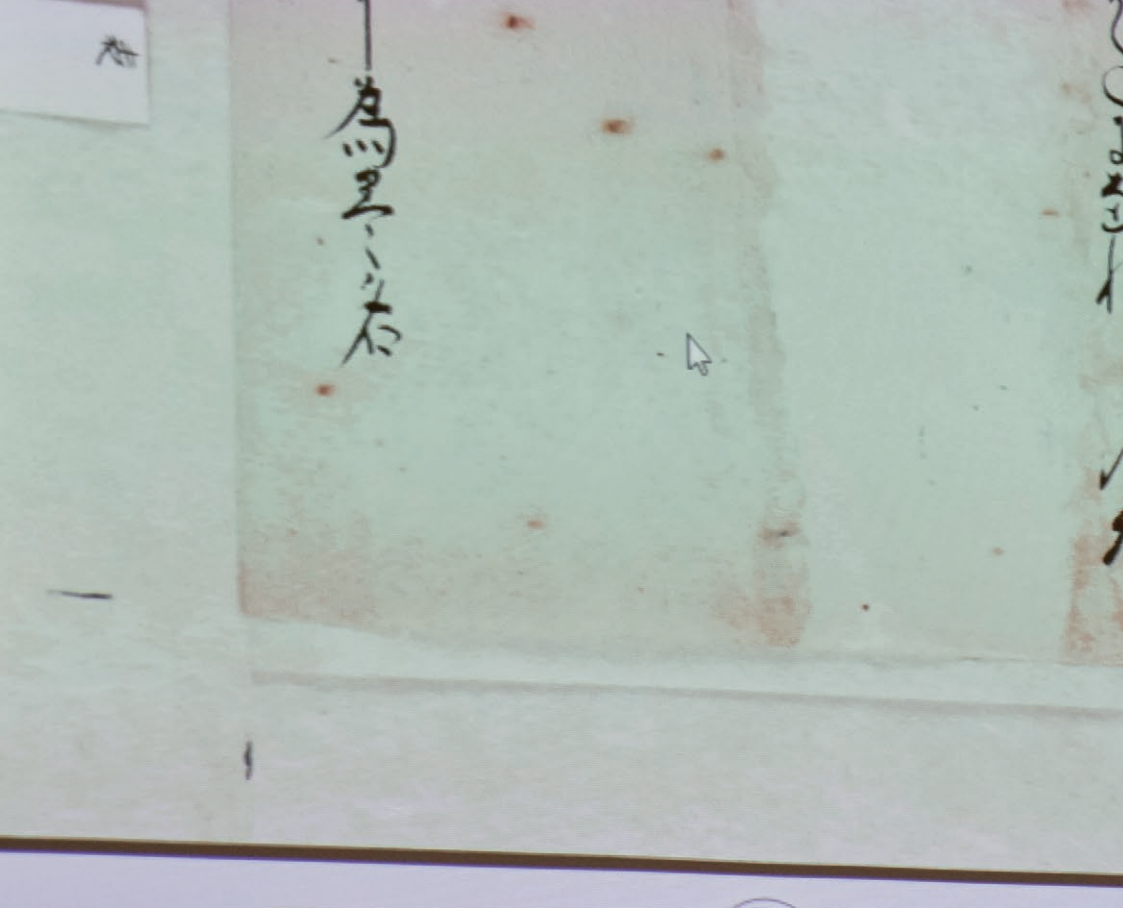
『若紫』は源氏物語の第五帖で、のちに主人公光源氏の終生の妻『紫の上』となる少女・若紫との出会いのシーンや、藤壺との密通・懐妊も描かれ、のちの展開の重要な伏線が含まれる。青表紙本『若紫』の発見により、源氏物語のストーリーの大筋はさほど変わらないが、鎌倉時代での本文の姿がより明確になり、微妙な注釈が変わってくるという。また、戦後初80年ぶりの新発見に「他の帖もまだどこかに」と夢が膨らむ。

青墨は定家の想い込もる自筆

『若紫』が発見されたのは、三河吉田藩(愛知県豊橋市)の藩主を勤めた大河内松平家の子孫である大河内元冬さん(72)の東京都四谷の実家の納戸の木箱から。明治時代に作られた大河内家の所蔵品目録によると、1743年に福岡藩主黒田継高から老中だった松平信祝に贈られたものだという。知人の勧めで、冷泉家に鑑定を依頼した。

藤原定家の青表紙本と現在認定されている源氏物語は、前田育徳会尊経閣文庫蔵『花散里』『柏木』、文化庁保管『行幸』、安藤積産合資会社蔵『早蕨』の計四帖。それらの姿から、今回新出の『若紫』の鑑定のポイントを藤本客員教授は4点あげている。

①『奥入』と言われる定家の注釈が書かれている。②透過光により紙質に繊維の塊が見られ、平安・鎌倉時代の「溜め漉き」方法によって漉かれている。③表紙が、紺表紙の『花散里』『柏木』と一致し、題簽(タイトルが書かれ貼られた細長い紙)は『花散里』『柏木』『行幸』と筆跡・紙質ともに同一。④本文の筆跡も他の四帖と同様の写本であった。書き写したのは他の青表紙本と同様に3〜4人の女性とされるが、「青墨」と呼ばれる高位の貴族しか使えなかった墨で「あり」と言葉が補われた部分や、「の」を「水」と大きく訂正上書きされた文字は、定家直筆と考えられるという。



写本が語る定家の文学観

源氏物語の当初の鑑賞方法は女房による朗読。紫式部も朗読を意識して執筆したと思われるが、紫式部日記で本人も綴っているとおり、草稿や清書されたものは失われた。多くの写本が作られ伝えられたが、写し間違いや書き落としも多かったとされる。制作当初から200年後、鎌倉時代に入って、藤原定家は父・俊成の写本（通称『俊成本』、現存なし）を元に、藤本客員教授曰く「主体的な校訂」を加えて青表紙本を制作した。

「定家は古典文学を現代へ橋渡ししたんです。朗読用だったものを、段階を踏んで黙読用にして時代に合うものにしていった。その過程が大島本と青表紙本の比較で見て取れます」（藤本客員教授）

藤本客員教授は、大島本は平安・鎌倉時代の定家写本の初期段階（俊成本書写、伝わらず）をベースにさらに250年後の室町時代に写本されたもの、青表紙本は大島本がもとにした定家本よりも後に、改めて定家が写した本と考えている。まず大島本のもととなった本において『奥入』（注釈）が加えられ、和歌の部分を改行した（韻文と散文をわける『分かち書き』。黙読で読みやすくなる）。次に青表紙本では、古典で

大宮学舎140周年記念特別企画講演で、鑑定の経緯や青表紙本の魅力を語る藤本客員教授

「む」や「ん」、「え」や「ゑ」など混在していた仮名遣いを書き換え、また和歌の上の句と下の句をさらにわけて二行の分かち書きにした。

さらに注目すべきは定家が意識的に本文を削ったと見られる点。別流の同時代の写本である『河内本』には書かれている文章が、青表紙本にはない。それが『柏木』の巻末部分。光源氏の正妻・女三の宮が柏木と不倫して産まれた薫が、源氏のもとにハイハイしてくる場面で、青表紙本は「這ゐざりなど」で終わっている。因果応報、源氏はどうしたのか？ 無視したのか、可愛がったのか？ 読み手は疑問に思い、余韻で想像する。一方、その部分に関しては原型をとどめていると思われる河内本では「もてあそんだ」などその後が続いている。

「青表紙本のように『這ゐざりなど』で終わると朗読で聞く場合は聞き手はブーイングでしょうが、読書であれば、その後を読者に推定させることで文学的作品にしようと。定家の文学者としてのこだわりが見えます」（藤本客員教授）

源氏物語を主体的に校訂して文学書にしようとした定家による試行錯誤を、青表紙本の文字や色が物語る。彼が現代へと橋渡しした世界的古典は、『若紫』の登場によってあらためて今、輝きを増した。

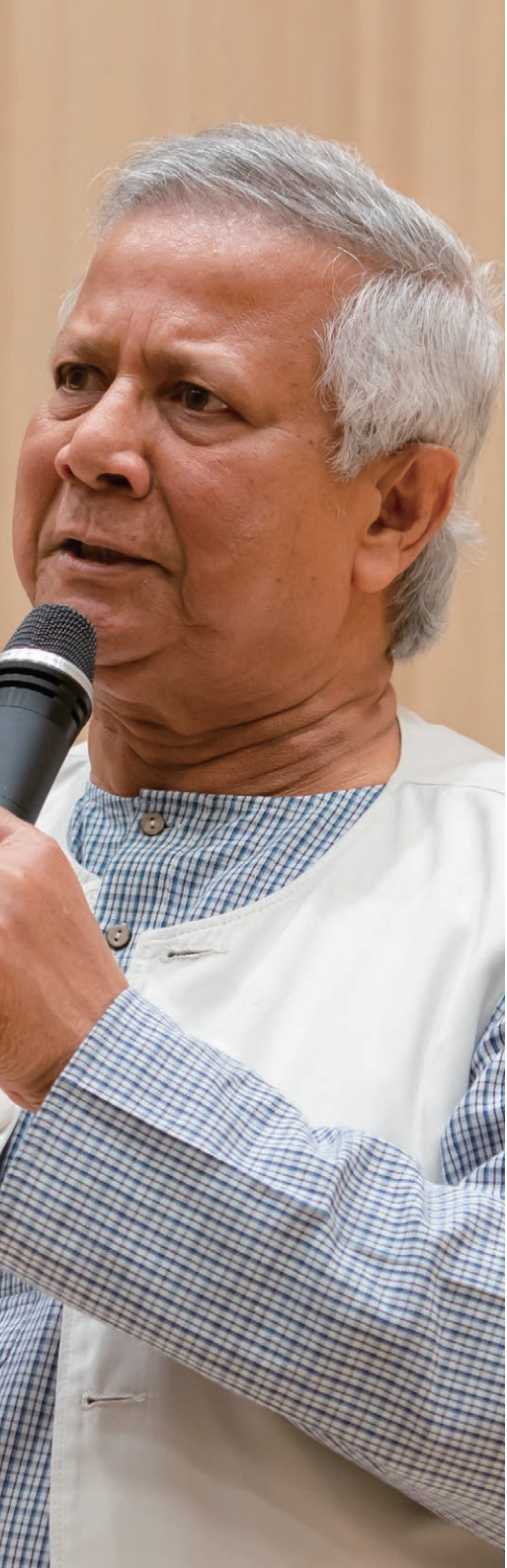
07 | World, Unlimited

本当の利益とは
他者を幸せにすること

グラミン銀行創始者
ノーベル平和賞受賞

ムハマド・ユヌス さん

本学創立 380 周年記念事業「世界宗教フォーラム」でのムハマド・ユヌス氏の基調講演



2019年11月、本学創立380周年記念事業の一環として『世界宗教フォーラム』を深草キャンパスにて開催し、そこでムハマド・ユヌス氏の基調講演がおこなわれた。バングラデシュ出身のユヌス氏は、低利融資によって貧困層の自立を支援するグラミン銀行を創始し、2006年にノーベル平和賞を受賞している。本学は2019年6月にユヌス氏が所長を務めるユヌスセンターと連携協定を締結し『ユヌス ソーシャルビジネス リサーチセンター』を設立。仏教の観点から持続可能な社会を考える「仏教SDGs」の推進・研究及び具現化の事業等をめざしている。ソーシャルビジネスと利他的行動をテーマにおこなわれたユヌス氏の講演は、“世界は良い方へと変えていける”という力強いメッセージに満ちていた。

大学の外に出て人々のために

1940年にバングラデシュで生まれたユヌス氏は、米国の大学で経済学の教鞭をとっていたが、1971年に祖国がパキスタンから独立したのを機に「人々が尊厳を持って生きられる国をめざしたい」との思いから帰国。しかし1974年の飢饉によって経済危機が起こり、夢は悪夢へと変わってしまう。帰国後も経済学を教えていたユヌス氏は、美しい大学を一歩出れば貧しい人々が溢れ、飢えて死んでいく姿に衝撃を受け、深く自らを省みる。

「私が教えている経済学と現実には大きな乖離があることを知り、経済理論も人々のためにならなければ意味はない、むしろ役に立たない学問を教えるのは罪ではないかとすら考えるようになりました。私はそんな罪悪感から逃れるために、毎日大学の外へ出て、一人でも村人を救うことにしたのです」

そんな活動をビジネスとして持続させるために立ち上げたのが、現在では世界中に2500を超える支店を持つグラミン銀行だ。

富よりもっと価値あるものとは

「私は既存の銀行のしくみをよく知らなかったがために、逆をいきました。ふつうの銀行はすでにお金のある人、信用のある人にしか融資しませんが、お金がない人に貸さなくては意味がありません。グラミン銀行は、融資するのに担保も契約書も必要ありません。借り手は97%が生活に困窮する女性ですが、99.5%という高い返済率を誇っています」

ユヌス氏は銀行の次に病院も立ち上げた。貧困者の問題を発見するたびに、それを解決するためのビジネスをつくり、現在では50もの事業を手がけている。

「企業活動の原則は収益の最大化なのに、なぜ儲からない事業ばかりやるのかという批判もされました。しかし、私は人々を救うためにビジネスをしているのであって、個人的に利益を得るためではありません。本当の利益とは、他者を幸せにすることです。あなたもやってみればきっとわかりますよ。人の問題を解決するために自分のアイデアが役立つ喜び、その満足感は非常に大きい。富を得るよりもずっと価値あるものです。人間は利己的な存在と決めつけるべきではありません。今日、世界の富はわずか1%の人に集中していますが、決してその人達

ソーシャルビジネスで起業した学生たちと握手を交わすムハマド・ユヌス氏

が悪人なのではなく、もちろん貧しい人が悪いわけでもなく、問題があるのは既存の経済制度なのです。ならば、そのシステムを変えればよいだけではありませんか」

「全ての人は生まれながらに内なる素晴らしい創造力を持っている」とし、誰かに指示されるのではなく、自らが主体的に選択し行動する人生を送るべきだと訴えた。

「どうしたら社会の問題を解決できるか。それを考えることがソーシャルビジネスの起点になります。ソーシャルビジネスをおこなう企業はたくさんありますが、個人でもできるのです。グラミン銀行で借りた30ドルだけで、読み書きができなくても起業家になった女性もいるんですよ」

それに対し「行動する勇気が持てるよう、背中をどのように押すべきか」という質問が出された。

「いま人類はこれまでの歴史のなかで最もパワフルです。ITやAIなど強力なテクノロジーを使え、一瞬で膨大な情報にアクセスすることだってできるのですから。もし行動することをためらっている人がいたなら、人生の意味と目的を明確にする方向へ導いてあげるとよいでしょう。Who I am? を見つける手伝いをすることこそ、教育のエッセンスではないでしょうか」

08 | Event Ryukoku Museum

人間味あふれるキャラクター 物語の中に生きる仏弟子たち

春季特別展 『ブッダのお弟子さん —教えをつなぐ物語—』

2020年4月18日（土）～6月14日（日）

休館日：月曜日（ただし、5月4日は開館）、
5月7日（木）

主　催：龍谷大学 龍谷ミュージアム、
朝日新聞社、京都新聞

「仏画でも仏像でも多くの場合はお釈迦さまが主役。その脇や周囲にいるお弟子さんたちは注目されることの少ない存在です。でも、実は現在のように仏教が成立し、発展、定着したのは、彼らの活躍あってこそなのです」と本展覧会を企画した岩田朋子学芸員。

「一見地味な存在に見えて、一人ひとりが人間味あふれるキャラクターを持っています。物語のなかにいきいきと伝わる彼らのやりとりやふるまいは、至って真面目。それゆえに時に微笑ましくも映ります」

十大弟子と呼ばれる10人の直弟子、十六羅漢として知られる16人の高弟から、維摩居士（ゆいまこじ）に代表される在家信者まで。多様多彩ないわゆるお弟子さん達の姿を、インド・東南アジア・チベット・中国・朝鮮半島・日本の作品で見ることができる。

「ブッダに帰依した仏弟子の境遇や出自は様々で、貴族もいれば資産家もいて、使用人も、異教徒からの改宗者もいます。なかにはなんと人間の子どもをさらって食べていた鬼女もいて、このおそろしい女神が改心して鬼子母神となります」

話を聞くとおおいに興味をそそられるが、ある一場面だけを切り取った絵画や彫刻から、そうした物語やエピソードの全体像を読みとることは難しい。そこで本展では、物語を表した仏教美術作品とそれらの物語を伝える仏教聖典をあわせて展示し、仏教に詳しくない人にも分かりやすく親しめる内容となっている。

「仏教総合博物館ならではの総合的な展示を通して、知ってこそ楽しめる仏教美術の世界、美術から親しむ仏教聖典の世界に触れていただければ。豊富に所有する経典をはじめ古典籍も生かし、キャラクターにまつわる物語を軸とした展示を試みました」

ガンダーラ彫刻から葛飾北斎まで、古今東西をまたいだ多様な作品で構成される本展覧会。国宝十六羅漢像のうち、中国北宋時代の貴重な羅漢図（清涼寺蔵）と日本最古の作列（東京国立博物館蔵）が揃うのも見どころだ。

岩田朋子 龍谷ミュージアム学芸員
https://museum.ryukoku.ac.jp/

重要文化財「十六羅漢像のうち第十四伐那婆斯尊者」(部分) 中国 元時代　愛知・妙興寺蔵（画像提供：一宮市博物館）

09 | People, Unlimited

龍谷人

食べられるアートで日常に楽しさを

フロンティア株式会社
能崎　真弥　さん

ロフトや東急ハンズ、地域のスーパー等で購入できる「食べられるアート」。でんぷん質のシートにキャラクターなどのイラストが食用インクで印刷されたもので、食品に貼り付け、簡単にキャラ弁やパーティーフードが作れると人気だ。こちらを世に出した仕掛け人が、株式会社フロンティアの入社4年目、若きプランナー能崎さん。

フロンティア社は紙製品や文具の企画販売で全国の雑貨店にルートを持っており、バレンタイン向けのアイデア商品等で食品関連事業も展開中。お菓子作りが趣味の能崎さんは、2016年入社直後から食品関連事業の新商品開発を任された。当時、キャラ弁の流れで、でんぷん質のシートに食紅等で絵を描いて食品をデコレーションする「オブラートアート」が一部で流行していた。が、能崎さんらはその技術の難易度の高さに注目。シートへの食用インクでの印刷を発想した。誰でも簡単に使えて食べられるアートシール「食べられるアート」の開発のスタートである。同時期、類似企画商品のネット販売はあったが、手に取れる実店舗での取り扱いはまだなかった。フロンティア社はそこに強みを持つ。

一年は試作機を使い、能崎さん含む企画チームの手作業で、試作と試験販売を重ねる日々だった。彼女は若き女性ならではの視点で、インスタグラムなどのSNSで利用者の些細な声を拾い上げながら、使い勝手、イラストの選定やパッケージデザインなどをコツコツと改善。そうするうちにルート店舗での売り上げやSNSでの反応が伸び、2018年、フロンティア社はついに食べられるアート専用の量産型生産レーンを独自開発、量産に踏み切った。

その後取り扱い店舗も増え、SNSのタグ付け効果でメディアの反応も相次いだ。食べられるアートの特設サイトもオープン。今ではデザイン全20種の看板商品となっている。

「店頭で手に取られる様子が見られたり、SNSで反応がわかったりと、消費者向け企画の楽しさを感じています。暮らしにささやかなワクワクをプラスする今の仕事が誇りです」

のざき まや　2016年政策学部卒業。同年4月、主に紙製品や文具等の企画販売をおこなうフロンティア株式会社に入社。プランナー。2018年、試作を重ねてきた「食べられるアート」がヒットし、現在も引き続き同商品のブラッシュアップをめざしている。

09 | People, Unlimited

龍谷人

東京オリンピック・パラリンピック 一生一度のチャンスに「完遂」掲げて

アシックスジャパン株式会社
代表取締役社長
小林　淳二　さん

東京2020オリンピック・パラリンピックのゴールドパートナーに名を連ねる、日本発スポーツ用品メーカー、アシックス。その販売を率いるアシックスジャパン株式会社の現社長・小林淳二さん。バレー部時代から慣れ親しんだスポーツ関連のメーカーに入りたいと1990年に新卒でアシックスに入社した。

最初の配属は北海道。担当商品はスポーツ関連ではなく、当時新規事業であったウォーキングシューズだった。

「やりたかったのはこれじゃない。と最初大きく戸惑いましたが、地方は大都市圏に比べ自分の裁量が効き、雪国ならではの商品開発ができたりして、次第に面白くなりました」

営業はロールプレイングゲームのようだと小林さん。顧客の気持ちやニーズ、行動をイメージしては作戦を練り、試す。目標達成できたら嬉しい。与えられた任務や、その時の縁を大切にしながら多様な商品の担当を経て、転勤した東京でマネージャー職に。2010年からは神戸本社で1年間海外ビジネスを学び、翌年にアシックス台湾の代表取締役社長に抜擢された。この台湾での経験こそが人生最大のピンチであり転機でもあった。

「文化・ビジネス・言語、全てが違う国で、日本人は社内に自分一人。赴任直前に病気になったり、部屋は水漏れ、仕事もわからない。でも素直に周りに聞いたり、好奇心を持って人と接するうちに、次第に慣れ、楽しめるように。4年間ここで組織経営のプロセスをコンパクトに経験したことが今につながりました」

豊かな現場経験が評価され、2018年アシックスジャパン株式会社の代表取締役社長に就任。自国五輪開催という一生に一度の今年、2020年度は「絶対に後悔できない。完遂をめざします」と意気込む。

オリンピック・パラリンピックスポンサーとして名だたる企業と交流し今、小林さんは原点を見つめている。

「商品を生活者に届け喜んでもらうことを通して『健全な身体に健全な精神があれかし』という創業者鬼塚喜八郎の理念を叶えたい」と。

こばやし じゅんじ　京都府向日市出身。中・高・大とバレーボール部に所属。1990年経済学部卒業後、株式会社アシックスに入社。営業として北海道、東京、その後神戸本社を経て、2011年にアシックス台湾コーポレーション代表取締役社長、2018年にアシックスジャパン株式会社代表取締役社長に就任。

09 | People, Unlimited

龍谷人

柔道療育に可能性の光 障がいを持つ子どもたちの笑顔と成長

放課後等デイサービス事業所「笑光」代表

内村　香菜　さん

「3歳から柔道をやってきましたが、この仕事を始めて改めて柔道の素晴らしさを感じています」と語る内村香菜さんは、鹿児島県鹿屋市で、国内初の柔道療育に特化した放課後等デイサービス『笑光(にこ)』を主宰する。

卒業後は、奈良県で5年間教員として働き、その時のクラスに、学習についていけない生徒やコミュニケーションが苦手な生徒が数人いて、そんな子どもたちの可能性も活かせるように専門知識をつけたいと考えるようになり、実家に戻るタイミングで養護学校へ赴任した。

養護学校でのある日、生徒に柔道衣を着せ、気軽な気持ちで一緒に柔道をしてみたところ、彼女が私をおさえ込むと声を上げて笑い出し、私におさえ込まれたら彼女は声を出して泣いた。言葉で表現できない彼女が柔道によって体と感情を解放していることに気づき「自分がやっていく柔道はこれだ」と閃いた。その直後に訪れたフランスでは、柔道は障がいを持つ人たちへとても有効だとして医者も薦めるほどポピュラーであることも知り、可能性と効果を確信した。

実家近くの30年間柔道を教えている叔父の道場を利用して、国や自治体の支援を受けられる放課後等デイサービス事業を開設することに。1年間準備に奔走し、2019年4月から開始、最初2〜3人だった登録児童は今では14名に。母や叔父伯母など家族ぐるみで、小学生から高校生までの発達障がいや身体障がいの子どもたちと柔道をする毎日。

「障がいの度合いが違う子どもたちが、相手に合わせた練習のやり方を提案したりもするのですよ。相手と組み、ともに動き、この力だったらこれだけの痛みがあるなど、人との協働や適切な距離感を身体で掴んでいける。身体づかいの不器用さの改善だけでなく、コミュニケーション面でも効果を感じます。学校で居場所がなく自己肯定感が低い子どもたちが多いのですが、『できた』を一つでも感じると自信になり、社会で生きていく力もつきます。私の次なる仕事は、この柔道療育を日本中に広げていくことです」

うちむら かな　2011年法学部卒業。在学中女子柔道部主将。卒業後、奈良育英中学高等学校で社会科の教員として5年間勤務。鹿児島県に帰郷後、鹿屋養護学校で2年勤務。2019年4月より放課後等デイサービス事業所「笑光（にこ）」を開設。

10 | News & Topics

最新情報

バドミントン部 全日本学生バドミントン選手権大会女子ダブルスで創部初の優勝

バドミントン部の朝倉みなみさん（政策4年）・斉藤ひかりさん（経営4年）が、2019年10月に開催された第70回全日本学生バドミントン選手権大会女子ダブルスに出場し、創部初の優勝に輝いた。前回大会の悔しさを果たすべく望んだ今大会。1時間20分もの大接戦に及んだ早稲田大学との準決勝では、持ち前の粘り強さで見事勝利し、日本体育大学との決勝では、ストレートで勝利して悲願の優勝を果たした。

吹奏楽部 第67回全日本吹奏楽コンクール大学の部にてオールA評価で金賞を受賞

2019年10月にリンクステーションホール青森にて第67回全日本吹奏楽コンクール大学の部が開催され、本学吹奏楽部が関西地区の代表として出場した。出場は、3年ぶり21回目。課題曲V・日景貴文作曲「ビスマス・サイケデリアI」、自由曲 ベルト・アッペルモンド作曲「ブリュッセル・レクイエム」を演奏した。演奏終了後、会場にはブラボー声と割れんばかりの拍手が響き渡り、見事オールA評価での金賞を受賞した。

日本拳法部 第64回全日本学生拳法選手権大会男子の部で16年ぶりの優勝

日本拳法部が、2019年12月に開催された全日本学生拳法選手権大会で16年ぶりの優勝を果たした。本大会では、明治大学が7連覇をしており、昨年は、決勝戦で明治大学に惜しくも敗れ、準優勝という結果となった。今大会の決勝戦の相手も明治大学で、大将戦までもつれ込む大接戦となったが、見事勝利して昨年の雪辱を果たし、優勝に輝いた。また、最優秀選手賞には冨永一希さん（経済1年）が選ばれた。

端艇部 第60回全日本新人選手権大会(女子シングルスカル)で優勝

2019年10月に埼玉県の戸田ボートコースで開催された、第60回全日本新人選手権大会の女子シングルスカルにおいて、菅沼奈津美さん(文2年)が見事優勝を果たした。昨年も同大会同種目で決勝に進出していたが、メダルを逃していた。その悔しさを胸に今大会に臨んだ。最終日に準決勝・決勝の2レースが実施されるという過酷な日程のなかであったが、最後まで高いペースを維持し続けての優勝となった。

陸上競技部 第86回京都学生駅伝競走大会1区で区間新記録を樹立

2019年12月に開催された第86回京都学生駅伝競走大会で陸上競技部が総合成績3位、また、1区を走った冨田直樹さん(文4年)が立命館大学や京都産業大学など全国大会常連校の強豪が集まるなかで、見事区間新記録を樹立した。中盤の上りで、一度は立命館大学の選手に抜かれたものの下りで追いつき、ラスト500メートルで引き離した。冨田さんは全日本大学駅伝に日本学連選抜として出場した。

国による奨学金「修学支援新制度」がスタート。龍谷大学も対象校に認定。

https://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/expense/

2020年4月から実施される「高等教育の修学支援新制度」は、授業料減免と日本学生支援機構の新たな給付奨学金がセットになった国による支援制度であり、支援対象は住民税非課税世帯およびそれに準じる世帯とされる。本制度は国の認定を受けた大学等が対象機関となり、本学も対象機関の認定を受けた。2020年4月上旬に新規申請希望者説明会を実施予定。詳細は本学ホームページ等で掲載。

石上智康理事長と田尻英三名誉教授が令和元年度文化庁長官表彰受賞

2019年12月に文化庁において、石上智康理事長と田尻英三名誉教授が、令和元年度文化庁長官表彰を受賞した。
文化庁長官表彰とは、文化活動に優れた成果を示し、わが国の文化の振興に貢献された方々、または、日本文化の海外発信、国際文化交流に貢献された方々に対し、その功績をたたえ文化庁長官が表彰するもの。

政策学部「伏見CBL演習」がきょうと地域力アップ貢献事業者等表彰を受賞

2019年11月、政策学部「伏見CBL演習」が、京都市の地域コミュニティ活性化のための施策の一つである「きょうと地域力アップ貢献事業者等表彰」を受賞。伏見CBL演習は、1年生から受講できるPBL入門科目として、これまで約6年間伏見区の区民祭りである伏見ふれあいプラザでのブース企画運営と、年間を通して伏見区内の特定の地域と連携し、地域イベントの体験や各種調査活動等をおこなってきた。

理工学部情報メディア学科『S-Ｐｒｏｊｅｃｔ』が草津街あかり「あかりART展」の優秀作品賞を受賞

2019年11月に立木神社で開催された草津街あかりイベントの一つ「あかりART展」で、情報メディア学科の学生団体『S-Project』が、「想像と現実の縁（えにし）」を演出し、優秀作品賞に選ばれた。「草津街あかり」は、彩り豊かなオリジナルのあかりが草津駅周辺の旧街道や寺社、公園などを美しく照らす、毎年恒例のイベント。「あかりART展」は、そのイベントの一つ。今年度は「灯り」をテーマに演出がおこなわれた。

政策学部の学生が「ポリス&カレッジ in KYOTO 2019」にて最優秀賞を受賞

「ポリス&カレッジ in KYOTO 2019～高齢運転者の交通事故防止対策～」が2019年11月に開催され、6大学から計13団体が出場するなか、政策学部井上芳恵ゼミが最優秀賞を受賞。「ポリス&カレッジ in KYOTO」は、京都府警察が主催し、各大学ゼミが研究テーマに沿って研究・分析・企画立案し、コンペ形式で発表をおこなう。実効性の高いアイデアを、京都府警の施策として実施検討するプロジェクトである。

「環びわ湖大学地域交流フェスタ2019」にて、3年連続ベストポスター賞を受賞

環びわ湖大学・地域コンソーシアムが支援する、滋賀県内の地域の課題解決に大学と地域が連携して取り組む活動および滋賀の魅力を学生が発信する活動の成果を発表する場として、2019年11月、「大学地域交流フェスタ2019」を開催。昨年度に続き、龍谷大学と草津市によるプロジェクトがベストポスター賞を受賞。本プロジェクトは、理工学部『S-Project』の学生を中心に、政策学部、社会学部の学生も参加している。

「インターカレッジ・コンペティション2019」で準優勝を受賞

2019年12月、スポーツサイエンスコース・松永敬子ゼミが「インターカレッジ・コンペティション2019」で準優勝の「ワールドマスターズゲームズ2021関西組織委員会賞」を受賞。このコンペは、スポーツ・文化・産業など、様々な分野の効果を生み出す国際スポーツイベント「ワールドマスターズゲームズ2021 KANSAI」を活用した地域活性化策などのアイデアを学生が企画・提案するもの。学生たちは優勝の「スポーツ庁長官賞」を僅差で逃し悔しさを滲ませていた。

「第15回京都から発信する政策研究交流大会」にて大学コンソーシアム京都理事長賞、優秀賞を受賞

2019年12月に開催された、大学コンソーシアム京都主催「第15回京都から発信する政策研究交流大会」にて、政策学部の中森孝文ゼミが大学コンソーシアム京都理事長賞、経済学部渡邉正英ゼミ、政策学部深尾昌峰ゼミが優秀賞を受賞した。同大会は、都市の抱える問題・課題を見つけ、それを解決するための研究をおこなう大学生・大学院生が日頃の研究成果を発表する場で、2005年度から開催されている。

理工学部 藤原学教授が2019年度日本分析化学会 学会功労賞を受賞

理工学部物質化学科の藤原学教授が、2019年度日本分析化学会学会功労賞を受賞。学会功労賞は、学会正会員にして日本分析化学会及び分析化学の発展に多大な貢献をした者で、受賞の年1月1日現在、30年間以上の会員であり、満55歳以上の者に贈呈される賞である。藤原教授は、「金属錯体ならびに考古・環境試料を対象とした化学結合状態分析に関する研究及び学会への貢献」が評価されての受賞。

社会科学研究所創設50周年記念事業「カンファレンスウィーク基調講演」を開催

2019年11月、コメンテーターとしても活躍されている谷口真由美氏（法学者）をお招きし、「損する選択、得する選択～目先の損得勘定は身を滅ぼす～」をテーマにご講演いただいた。参加者約160人を前に、目の前の事象だけで物事の良し悪しを判断するのではなく、教養を深め、複眼的に思考する習慣を身につけることが大切だと話され、最後は、「優秀懸賞論文」を受賞した学生5名と研究論文をテーマに意見交換がなされた。

「PRIDE指標」においてシルバーを受賞

龍谷大学は、任意団体「work with Pride」が実施するLGBTへの取組を評価する「PRIDE指標2019」で、「シルバー」の評価を受けた。PRIDE指標は、性的指向や性自認にかかわらず誰もが働きやすい職場の実現をめざし、優れた企業や団体等を表彰するとともに、社会に広く浸透させることを目的としている。
本学は、「性のあり方の多様性に関する基本指針」を策定しており、先進事例に学び当事者に耳を傾けながらこの課題に継続して取り組んでいく。

「共生のキャンパスづくり」シンポジウムを開催

2019年11月27日、「仏教SDGs」まごころある人が育つキャンパスづくり、をテーマに深草キャンパスで「共生のキャンパスづくり」シンポジウムを開催。本学の障がい学生支援の現状について、学生や卒業生、教職員からの報告やパネルディスカッションを実施した。本学手話サークルによる手話発表やボランティア・NPO活動センターの学生による展示物の紹介、また初の試みとして、シンポジウム会場外に、参加団体による展示コーナーも設けた。

若松英輔氏特別講演会「教皇フランシスコと『貧しい人』の叡知」を開催

2019年12月23日、批評家・随筆家として著名な若松英輔氏（東京工業大学教授）による特別講演会「教皇フランシスコと『貧しい人』の叡知（えいち）」が深草キャンパス顕真館にて開催された。11月23日に来日されたローマ教皇フランシスコの3日間におよぶ訪日スケジュールに同行された若松氏が、教皇の様々なメッセージから学ぶべきこととは何かについて講演された。本講演会は、一般にも広く公開し、当日は全国から多くの方が来場された。

湖南市×龍谷大学「養蜂プロジェクト」特産品「KONAN HONEY（こなんハニー）」が常設販売へ

2017年から湖南市と龍谷大学が連携し、実施している「養蜂プロジェクト」は湖南市の特産品の開発事業としてスタート。その「養蜂プロジェクト」の成果物である純粋はちみつ「KONAN HONEY」が、近鉄百貨店（草津店）にて常設販売されることとなった。農学部生の養蜂グループ「Honey Come」が収穫、パッケージデザイン、包装等をおこなう。はちみつの収穫・販売にとどまらず、農福連携で地域貢献をめざす。

熊本県と龍谷大学農学部が連携協定を締結

2019年8月27日、龍谷大学農学部と熊本県は、水俣地域を中心に「食」と「農」の分野で、地域の振興に寄与することを目的とした連携・協力に関する協定を締結した。熊本県と農学部との連携を深めることで、学生が農業先進地域の取り組みを学ぶ機会を得られるほか、熊本県からは本学の知的資源を活かした研究や地域ブランドの確立とその発信が期待され、持続可能な社会の構築に貢献する人材の育成をめざす。

NTT西日本とICTを活用した連携協力に関する協定を締結

2019年10月、龍谷大学と西日本電信電話株式会社（NTT西日本）は、ICTを活用した連携協力に関する協定を締結。「地域創生クラウド」を大学として全国で初めて導入し、高いセキュリティ環境におけるデータ管理のもと、クラウドシステムを活用、より地域と密着した連携の実現に取り組む。この協定により、実践的研究、正課・課外活動、教育の分野においてICTを活用し、より広く深く地域への貢献及び様々な社会課題解決に向けた取り組みを推進していく。

「社会医療法人誠光会と龍谷大学社会学部・社会学研究科との教育研究協力に関する包括協定書」を締結

2019年10月29日、社会学部および社会学研究科は、社会医療法人誠光会と「教育研究協力に関する包括協定書」を締結した。本協定の締結により、今後は学生のインターンシップや職員採用のみならず、共同研究や各種調査の実施など、社会学部及び社会学研究科の教育・研究のフィールドとしての相互活用も視野に入れ、組織レベルでの協力関係を強固なものにしていく。

学部長・研究科長の就任について

経済学部長に
小峯 敦（こみね あつし）教授を選出
（任期：2020.4.1～2022.3.31）

法学部長に
本多 滝夫（ほんだ たきお）教授を選出
（任期：2020.4.1～2022.3.31）

国際学部長に
三谷 真澄（みたに ますみ）教授を再任
（任期：2020.4.1～2022.3.31）

経済学研究科長に
伊達 浩憲（だて ひろのり）教授を選出
（任期：2020.4.1～2022.3.31）

経営学研究科長に
鈴木 学（すずき まなぶ）教授を選出
（任期：2020.4.1～2022.3.31）

法学研究科長に
神吉 正三（かんき しょうぞう）教授を選出
（任期：2020.4.1～2022.3.31）

国際学研究科長に
松居 竜五（まつい りゅうご）教授を再任
（任期：2020.4.1～2022.3.31）

農学研究科長に
伏木 亨（ふしき とおる）教授を再任
（任期：2020.4.1～2021.3.31）

11 | Book Café

新刊紹介

＊値段はすべて税別価格で表示
＊Book Caféについては龍谷大学学長室（広報）まで

01 龍谷叢書49
『ロバート・フロストの牧歌の技法』
藤本 雅樹（文学部教授）翻訳

本書はアメリカの国民的詩人ロバート・フロスト研究のマイルストーンとして半世紀以上の時を経てもなお輝きを失うことなく読み継がれている名著。現代にも通じる20世紀の混沌とした時代の文脈の中で、牧歌の古い形式の可能性を探ろうとしたフロストの意図の核心部分が、J・F・リネンの犀利な洞察によって明かされる。

2019年11月刊／279頁／晃洋書房／3800円

02 龍谷叢書50
『唐・南山道宣著作序文訳註』
大内 文雄（文学部元特任教授）編訳

唐の道宣(596～667)には、戒律学や目録学、また仏教に関わる僧俗の史伝記録、護法の立場からの儒仏道三教論争に関する編著等、広範囲にわたる多数の著作が現存し、いずれも中国の仏教や歴史の研究のみならず、他分野においても不可欠の重要史料である。それらに付随する序文二一種及び篇序一〇種に対する、殆どが初訳となる本書の現代語訳と註は、道宣の学問の全体像を理解し把握する端緒を提供する。

2019年9月刊／420頁／法藏館／7500円

03 『まじない歌の世界～もしくは幸福論～』
吉岡 生夫（1973年度文学部卒業／兵庫県）著

二部より成り、I部は諸文献に登場する呪い歌、II部は糟谷磯丸の呪い歌に解説を施す。近代以降、忘れられたが、その心情には永遠の願いがこもる。

2019年10月刊／258頁／ブイツーソリューション／2000円

04 『日本の笑い話 らくご絵巻（英文併記）』
もりた はじめ（1973年度経営学部卒業／コピーライター／東京都）編

古典落語二題を日本文と英文で物語るビジュアルブック。英語圏の人だけでなく、英語学習中の日本人にもおすすめ。かわいい絵で贈りものにも最適だ。

2020年1月刊／120頁／新泉社／1800円

出版情報

01:『主権論史―ローマ法再発見から近代日本へ―』
嘉戸 一将(文学部准教授)著
西洋中世から近年までの主権論の歴史の要諦を明らかにし、維新期から敗戦後までの日本におけるその受容と展開をたどった書。
2019年8月刊／516頁／岩波書店／9000円
書評「朝日新聞」2019年10月12日

02:『《人気の仏様たち 徹底ガイド》阿弥陀・薬師・観音・不動』
武田 晋(文学部教授)、葛野 洋明(文学部教授)共著
極楽浄土の救主の阿弥陀如来、病を癒す薬師如来、慈悲深き観音菩薩、そして怒りの形相の不動明王。古来、多くの人に信仰されてきた仏様たちのすべてを、やさしく紹介。
2019年9月刊／282頁／大法輪閣／1900円

03:『人権論入門―日本国憲法から考える』
奥野 恒久(政策学部教授)著
日本国憲法13条は「すべて国民は、個人として尊重される」と定める。誰もが一人ひとりとして大切にされなければならないという視点から、現在の人権状況を点検する。
2019年8月刊／178頁／法律文化社／2000円

04:『藤原南家・北家官人の考察』
木本 好信(文学部特任教授)著
奈良時代の藤原氏のうち、南家出自の豊成や仲麻呂、北家の御楯や楓麻呂兄弟の生涯を辿ることによって、その時代の政治的動向と皇位継承の実態を解明する。
2019年8月刊／230頁／岩田書院／4900円

05:『藤原式家官人の考察』
木本 好信(文学部特任教授)著
奈良時代の藤原式家を出自とする宇合・田麻呂・百川・蔵下麻呂・種継らの政治的考察をとおして、その政権の実態と光仁・桓武天皇擁立の実相を解く。
2019年9月刊／276頁／岩田書院／5900円

06:『森のようちえんの遊びと学び:保育・幼児教育の原点 ナチュラル・キンダーガーデン』
金子 龍太郎(社会学部教授)共著
自然保育「森のようちえん」で遊び学ぶ幼児の姿を写真とエピソードで示して、その意義を保育・幼児教育の歴史と科学的知見から論じている。
2019年11月刊／184頁／かもがわ出版／2000円
書評「中日新聞」2020年1月1日、「京都新聞」2020年1月18日

広報誌『龍谷』のデジタル版配信について

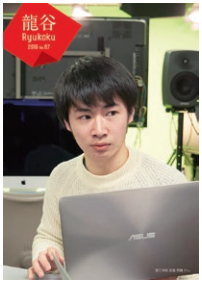
広報誌「龍谷」はデジタル版でも閲覧できます。冊子版の発送を不要とされる方は、各号に綴じ込まれているハガキ、または以下のデジタル版配信申込ページにてお申し出ください。手続き完了以降は、毎号の広報誌「龍谷」刊行ごとに、ご登録いただいたメールアドレスにデジタル版発行のご案内をいたします。

広報誌「龍谷」デジタル版配信申込ページ
https://www.ryukoku.ac.jp/prdigital/

下記URLおよびQRコードから過去の広報誌（デジタル版）がご覧いただけます

2018年No.85

2018年No.86



2019年No.87

2019年No.88

Degital Library
https://www.ryukoku.ac.jp/about/pr/publications/

広報誌『龍谷』89号（デジタル版）プレゼント応募・読者アンケートフォーム

今後のよりよい広報誌づくりのため、Webアンケートにて皆様のご意見をお聞かせください。なお、アンケートにご回答いただいた方全員が、プレゼント抽選の対象となります。

https://www.ryukoku.ac.jp/enquete/

広報誌『龍谷』からプレゼント

特別展「釈尊と親鸞」出品解説……5名様(8つセット)

アカイノロシドリップバッグ[チャーリー深煎り]……5名様(3つセット)

龍谷大学卒業生が運営する「株式会社 アカイノロシ」

アカイノロシは持続可能な流通モデルを構築し、世界中のヒトやモノがその価値を正当に評価され、後世に残っていく社会の実現を目指しています。その第一歩目として「タイ北部の山岳地帯から世界に誇るコーヒー農園を」という目標を掲げ、タイの少数民族アカ族が作るコーヒーを販売しています。

ご希望の方は、読者アンケートフォームにご回答ください。
また、ハガキでご応募の方は、ご希望のプレゼント名を明記した上で、住所・氏名・年齢・職業・電話番号(龍谷大学卒業生は卒業年度・学部なども)および広報誌「龍谷」の感想・意見、あなたの近況などを書き添えてご応募ください。ハガキでご応募の場合のあて先は右記「プレゼント」係まで。感想や近況は「読者のひろば」に掲載させていただくことがあります。

締め切りは5月29日(金)必着。

応募多数の場合は抽選となります。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

前号(88号)に写真の誤りがございましたので、
お詫びして訂正いたします。

P42 右上段の『EU推進の留学・学術交流プログラム「エラスムス・プラス」により龍谷大学とカーディフ大学(英国)が協定を締結』の写真と、左下段『瀋陽大学と龍谷大学が包括協定を締結』の掲載写真が逆になっておりました。

読者のひろば

卒業生が在学生にまけないように、学びを追求していきたいです。
本学卒業生 I さん

子どもが通う学校の広報誌で、よく拝読させていただいてます。これからの長い人生の中で、長いようで短い大学 4 年間。子どもも、私も、龍谷大学生活を満喫しようと思います。
在学生保護者 T さん

卒業生で活躍している人たちにとても興味があるので、知れることが嬉しいです。
本学卒業生 M さん

お便り待っています

「読者のひろば」へのお便りをお待ちしています。また、「龍谷人」などへの推薦や情報をお寄せください。いずれも以下のあて先まで。
※いただいた個人情報は広報誌「龍谷」の編集以外の目的には使用いたしません。

プレゼント・お便りのあて先

龍谷大学 学長室 (広報)
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
電話:075 (645)7882
FAX:075(645)8692
E-mail:kouhou@ad.ryukoku.ac.jp

【編集委員】
青戸 英夫、安食 真城、井手 健二、石埼 学、小野 勝士、落合 雄彦、金 紅美、河角 隆宏、齋藤 正治、嶋崎 陽一、白石 克孝、竹田 純子、谷口 清朗、玉井 鉄宗、デブナール ミロシュ、田 園、外村 佳伸、能美 潤史、野口 聡子、藤崎 智史、水野 哲八、山口 大、若林 雅子(50音順)
【事 務 局】
田中 雅子、山田 美由紀、増田 滋彦

広報誌「龍谷」89号
2020年3月10日発行
編 集:龍谷大学編集委員会
制 作:龍谷大学学長室 (広報)
発 行:龍谷大学
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
電話 075(642)1111 (代表)
龍谷大学ホームページURL
https://www.ryukoku.ac.jp

公式 facebook「龍谷大学」
www.facebook.com/RyukokuUniversity/

公式 YouTube「龍谷大学」
www.youtube.com/user/RyukokuUniversity

公式 Instagram「龍谷大学」
www.instagram.com/ryukokuuniversity/

龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY